

带状疱疹の予防接種についての説明書

●带状疱疹とは

水痘（水ぼうそう）と同じウイルスで起こる皮膚の病気です。身体の左右どちらかの神経に沿って、痛みを伴う赤い斑点と水ぶくれが多数集まって带状疱疹に生じます。症状の多くは上半身に現われ、顔面、特に目の周りに現れることもあります。また、皮膚症状が治った後も長い間痛みが残る「带状疱疹後神経痛」になる可能性があります。带状疱疹は、70歳代で発症する方が最も多くなっています。

●対象となる方

- ① 年度内に65歳を迎える方。
- ② 60～64歳でヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害があり日常生活がほとんど不可能な方。
- ③ 経過措置として、その年度内に70、75、80、85、90、95、100歳※となる方も対象となります。

※ 101歳以上の方については、令和7年度に限り全員対象となります。

●带状疱疹ワクチンとは

带状疱疹ワクチンには生ワクチン（阪大微研：乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」）、組換えワクチン（GSK社：シングリックス）の2種類があり、接種回数や接種方法、接種スケジュール、接種条件、効果とその持続期間、副反応などの特徴が異なりますが、いずれのワクチンも带状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められています。

	生ワクチン（阪大微研）	組換えワクチン（GSK社）
接種回数（接種方法）	1回（皮下に接種）	2回（筋肉内に接種）
接種スケジュール	—	通常、2か月以上の間隔を置いて6か月以内に接種する。 病気や治療により、免疫機能が低下したまたは低下する可能性がある方等は、医師が早期の接種が必要と判断した場合、接種間隔を1か月まで短縮できます。
接種できない方	病気や治療によって免疫が低下している方。 ・明らかに発熱（通常 37.5℃以上）がある方。 ・重篤な急性疾患に罹っている方。 ・ワクチンの成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある方。 ・その他、予防接種を行うことが不適当な状態にあると医師が判断する方。	—
接種に注意が必要な方	輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は 治療後3か月以上 、大量ガンマグロブリン療法を受けた方は 治療後6か月以上 置いて接種。 ・心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方。 ・予防接種を受けて2日以内に発熱や全身の発疹などの症状があった方。 ・けいれんを起こしたことがある方。 ・免疫不全と診断されている方や近親者に先天性免疫不全症の方がいる方。 ・ワクチンの成分に対してアレルギーを起こす恐れのある方。	筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方。

●帯状疱疹ワクチンの効果

ワクチンの効果（報告）	生ワクチン（阪大微研）	組換えワクチン（GSK社）
接種後1年時点	6割程度の予防効果	9割以上の予防効果
接種後5年時点	4割程度の予防効果	9割程度の予防効果
接種後10年時点	—	7割程度の予防効果

●帯状疱疹ワクチンの安全性

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、生ワクチンについては、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎がみられ、組換えワクチンについては、ショック、アナフィラキシーがみられることがあります。

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

主な副反応の発現割合	生ワクチン（阪大微研）	組換えワクチン（GSK社）
70%以上	—	疼痛*
30%以上	発赤*	発赤*筋肉痛、疲労
10%以上	掻痒感*、熱感*、腫脹*、疼痛*、硬結	頭痛、腫脹*、悪寒、発熱、胃腸症状
1%以上	発疹、倦怠感	掻痒感*、倦怠感、その他の疼痛

*ワクチンを接種した部位の症状 各社の添付文書より厚労省にて作成

●他のワクチンとの同時接種・接種間隔

いずれの帯状疱疹ワクチンについても、医師が特に必要と認めた場合は、他のワクチンと同時接種が可能です。主治医や医療機関にご相談ください。

生ワクチン（阪大微研）は、他の生ワクチンを接種する場合には27日以上の間隔を置いてください。

●接種を受けた後の注意点

- ・ワクチンの接種後30分程度は安静にしてください。また、体調に異常を感じた場合には、速やかに医師へ連絡してください。
- ・注射した部分は清潔に保つようにしてください。接種当日の入浴は問題ありません。
- ・当日の激しい運動は控えるようにしてください。

●予防接種健康被害救済制度について

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすことはできないことから、救済制度が設けられています。申請に必要な手続き等については、町民保健課にご相談ください。